

2013 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [東京都立田柄高等学校] 担当教諭名 [長島 春美] (1年1~5組 54名)

交流相手国 [カナダ]

海外学校名 [Lincoln M. Alexander Secondary School] 担当教諭名 [Anura Bellana]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	美術+課外活動	アートマイル国際交流壁画	30

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	<p>「環境問題は国境を越えて広がる地球全体の問題である」</p> <p>LMASS 側サブテーマ「アルバータパイプライン」</p> <p>田柄側サブテーマ「福島への被爆、環境汚染と再生」</p>
絵に込めたメッセージ	<p>田柄側：東日本大震災で大きな被害を受け、特に福島では原発の事故もあった。震災で流された自動車、壊された家屋、痛めつけられた樹木、原発事故は汚染水の公海流出など深刻な問題を世界に与えている。一方で、奇跡の一本松など自然の力や復興住宅での生活に、こども動物園や、灯籠流し、相馬野馬追といった伝統文化や人々のつながりが被災者を慰め、セラビードッグ、桜プロジェクトのような企画も進められている。日本の美しい自然、伝統文化、人々のつながりによって危機に瀕した人々の再生に向けた歩みを進めている。</p> <p>カナダ側：カナダが工業化するにつれて、誇りにしてきた自然の美しさが失われていく。近代建築は一見美しいが、実はエネルギーを浪費し、汚染物質を放出している。温暖化で氷山が溶け出し、シロクマの子供が母親から離れてしまい氷塊の上で漂流している。それを取り巻くところには、氷の裂け目を描き、私たちが地球に気をつかわなければ、より多くの野生生物が危機に瀕し、このホッキョクグマの子供も同じ運命を辿るのだ。また、日本で津波に攫われた自動車がばらばらになってカナダの海岸を汚しているように、世界の一部に起こる環境問題は世界中の他の地域へも影響を与えている。私たちが扱ったもう一つの環境問題は原子力の問題。原子力発電所と、その前で原発を全く気にもせず日常生活している人々を描いたのはむしろ警告だ。日本で起こったような甚大な被害を繰り返してはならないということ、原子力発電の根源的な危険性を理解しなくてはならないということだ。私たちの主題であるアルバータパイプラインはロッキー山脈から工業化地域までずっと国土を横断する計画で、それは私たちの未来への懸念を表している。</p>



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<p>自国の文化や環境についての問題意識を覚醒させ、互いの問題意識を交換し、深めることができた。</p> <p>美術で学習した物の表現や日本の伝統絵画の手法を実践的に応用することができた。</p> <p>テーマに基づいた絵画の構成を実践的に学ぶことができた。</p> <p>多くの人々の考えや感じ方、絵画表現を集めて再構築し、共同で一つの表現をしていく体験ができた。</p> <p>異なる文化や自然の中で生活している人々について興味を持ち、幾分かを知ることができた。</p> <p>苦しい中で協力して壁画を仕上げ達成感を得ることができた。</p>	<p>9月開始で12月完成という日程の中、多数の生徒の間で取り組み質的に高い物を目指すのは時間的に困難を極める。</p>

■アートマイルの活動を周りにお知らせしましたか？ 周りの反響はどうでしたか？

担当教諭や子どもたちによる広報	校内・保護者や地域の方からの反響
<p>日本側完成時の展示(作品と経過を含めた内容説明)展示のポスター。</p> <p>公開鑑賞会(玄関、昇降口に展示して鑑賞会を行う)</p>	<p>「すごいですね。」という反応はあったが、展示した時間が極めて限られており、しかも戻ってくる時は最も忙しい時期で、教員を含め多くの人に見てもらえる機会はない。これから展示を続けることで、入学式を始め、文化祭、地域祭などで反響を広げることができる。ちなみに過去の作品では、説明会などでの来校者や外部での展覧会でも非常に高い評価を受けた。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科
導入1	1学期 夏休み	<p>カナダと交流して壁画を描くことを伝え、その基礎として日本の伝統絵画の基礎や金箔画を実習することを伝え、学習を進める。同時に源氏物語絵巻を中心に日本絵画の伝統における植物表現の特徴を学ぶ</p> <p>相手国の文化風土について 日本の伝統美術について 原子力爆弾について 原子力発電について 調べて新聞形式にまとめる</p>	<p>意欲的な取り組みも多く、良い作品がたくさん生まれた。</p> <p>半分ほどの生徒が提出した。</p>	美術
導入2	9	<p>「環境、文化」のキーワードで思いつくことを書かせる。</p> <p>それらを印刷して分類したりした後、今度はカナダの高校生に伝えたいことを書かせる。</p> <p>互いの意見をよく知り交流するために全員の意見を印刷して、全員が他者の意見にそれぞれ共感か疑問、反論のいずれかの印をつけ更に意見を書かせる。</p> <p>自己紹介を書かせる。</p> <p>カナダから自己紹介ビデオが来て授業で鑑賞する。</p>	<p>日本の自然の美しさ、伝統文化の素晴らしさが文明の発達面と同じくらい出てきた。概ね一生懸命取り組んでいる。幼い内容が多いが、普段反抗的だったり、怠慢な態度なのに、非常につっこんだ意見を書いている生徒たちがいる。</p> <p>同じ意見が繰り返されることもあるが、互いの意見に対する反応も含まれていて、少しずつ変化が見られる。</p> <p>簡単な内容。 カナダ＝白人というイメージだった生徒が多く、相手生徒たちに有色人種が多いことに驚く。</p>	美術

<p>情報 収集</p>	<p>9～ 12</p>	<p>生徒達から出たことばを英訳してカナダに送り、返事が来る。 (東日本大震災に触れた生徒の言葉に触発されたカナダの生徒の意見として「原発事故で汚染水が太平洋に流れ出ている。カナダにもアルバータパイプラインという環境問題がある。それらの環境問題は自国だけの問題ではなく世界につながることなんだということを、日本は原発の建屋から汚染水が流出している状況を描き、カナダはアルバータパイプライン関連の構造物を描くということで表現してはどうか))</p>		<p>美術</p>
<p>テーマ 検討</p>	<p>9～ 10</p>	<p>授業でカナダ側の提案を配布し、宿題で集めた情報も含めて提示。グループ毎に考えて意見をまとめさせる。 グループ代表者会議で話し合う。 相手を否定せず、含みこんで発展させるのが交流の基本と教え、テーマをどのように展開するか話し合わせる。 カナダ側に「悪いところと、良いところの両方をかきたい」旨伝え、先方も多くの生徒が同意見ということで、了解を得る。 モチーフをどう絞り込むか話し合う。 生徒たちが「良いところ」という日本の美しい自然や伝統文化、人情が被災者を慰め、力づけていることに注目させ、被災から復興、復活に向けたストーリーにまとめるよう提案。</p>	<p>自分が原発の内容を書いた生徒と、その他数名は賛同するが、多くの生徒が「悪いことばかり描きたくない。それでは日本は悪い国だと思われてしまう。」「日本のいいところも描きたい。」という意見が多く出る。「悪い面を描くのは嫌だ。」という生徒もいる。 「悪いところと、良いところの両方をかけばよい」という事にまとまる。 なかなか意見が出ない。 提案に賛成意見多数。</p>	<p>美術</p>
<p>情報収 集</p>	<p>10～ 11</p>	<p>インターネット、新聞、雑誌などから、被害の様子、被災者を慰め、復興に関わる「日本のよいこと」を自然、伝統文化、科学技術の観点で記事と写真を収集する。</p>	<p>実際に提出する生徒は三分の一程度。 具体的なモチーフとして震災被害、原発事故、汚染水タンクなどの写真、奇跡の一本松、相馬の野馬追、セラピードッグプロジェクト、桜プロジェクト、富士山などが選ばれる。</p>	<p>美術</p>
<p>制作</p>	<p>11～ 1</p>	<p>全員に、収集した資料を見せ、自分が描きたいと思う物を描いてもらう。 人の動き、馬の動きを表現する基礎力として絵巻を参考にして軸-骨組みを抜き出す練習。その後、全員に逃げる人々、馬や騎馬像を描かせる。 全体から選び出した絵をストーリーに従って構成する。 細かい部分を決めるには、グループ代表でも多すぎるので、更に実行委員を選出して放課後も使って相談する。 3つの講座で分担を決める。 描画</p>	<p>漠然と描いた物はうまくいかないが、骨組みから描かせた人や馬は動きがよく表われている。 講座が3つなので、大きく3つに分けて順に悪い(暗い)部分から良い(明るい)絵に展開させると決定。 生徒自身が授業の順番も考慮して分担を決</p>	<p>美術</p>

		授業時間では到底足りないので、放課後も招集する。	定。 全員が集めた資料を再度見直して必要な画像を収集したり、相談しながら分担して描く。時間をやりくりして長時間残ってくれる生徒もいる。実行委員以外にも声をかけ、取り組む。終業式に6時間以上描き続けた生徒もいる。	
鑑賞	1月 3月	田柄側が完成した段階で玄関に展示し講座毎に鑑賞会(ワークシートを使用)実物は1日でカナダに送ってしまったので2講座は写真を見ながらの鑑賞。 カナダから戻ってきた作品とカナダからの手紙、制作過程などを昇降口に展示	直接キャンバスに描いていない生徒も感動し驚いて、もっと関われば良かったという者もいた。 卒業式、学年末試験、入学試験などが相次ぎ、授業で鑑賞できていない講座もある。カナダの生徒たちの描写力に感心する声が多い。	

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	3	生徒によって差が大きいですが、例えば、東日本大震災の被災者が回復する為に役に立っている日本の伝統文化は何かと考える場面で、日本の美しい自然、四季の変化など自然の条件、壁画に取り入れた福島県相馬の野馬追いなどの祭り、日本の伝統建築や近現代の建築文化、町並みについてなど多くの指摘があった、同時に必ずしも良い側面だけでなく、近代化による自然破壊や人間性の摩耗などといった負の側面に気づいて指摘する生徒もあった。それらを全て印刷して互いの意見を交流させた結果、共感し合うものも少なからずあった。
異文化の理解	B	3	カナダという国についての理解は極めて乏しい生徒がほとんどであった。交流を通じて、カナダの人々は白色人種だけではないということに始まり、壁画に描かれたカナダの自然環境、文化、そして相手校の生徒の考えに触れることができ、驚きをもって感想を書いている生徒たちがいた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	3	毎回文章化させ、印刷して意見交流をする上で、抵抗なく意思を表明できるよう、第一段階では記号で共感する、共感できないのいずれかを答え、更に意見を書いてもらうワークシートにしました。誠実に答えていると思われるものがほとんどで、積極的に意見を述べているものも相当数ありました。代表者会議や実行委員会で意見を述べたりまとめたりする中で成長した部分もあると思います。また、テーマと絵画イメージとのつながりについて説明をする中でもかなり成長できた面があったと思います。英語については若干の生徒が相手校への発信で英語を使っていたのですが、間違いも多く、積極的に勉強して書くというほどの内容は見えませんでした。
情報活用能力 (情報収集・発信)	A	3	調べ学習の機会は全体として取り組んだ大きな機会が3回ありました。当初の相手国の文化風土、日本の伝統絵画について調べる回は半数以上の生徒が提出し発表できました。

			壁面のテーマに沿った具体的な絵画モチーフを集める段階では、授業時間が使えないため少数の取り組みとなりました。しかし取り組んだ生徒たちは熱心な結果を残しました。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	3	共通のテーマに沿って一つの画面を作り上げていく経験は、他の成員を無視できず、むしろ積極的に他者に注目し生かす工夫を促しました。一つの学級にとどまらず3クラスでの取り組みであったため、難しさもありましたが、互いに遠慮して言いたいことが言えない部分を支援すると相乗効果が現れ、考えや作品の向上が見られました。
協働する力 (役割分担・協力)	A	3	3クラスで一つの壁画に取り組んでいたため、分担内容を決める際も授業日程やそれぞれのクラスで得意な傾向不得意な傾向について考慮に入れるなど、高度な配慮をしていると思われました。同一クラス内では、それぞれの性格まで見通して分担し力を合わせて完成させようとする姿が見えました。
学習を追究する意欲	A	3	「学習」が指すものがよくわかりませんが、プロジェクトに対する意欲は相手校からの手紙への反応、ビデオへの反応、上に書いてきたそれぞれの取り組みの中に見えていると思います。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	4	キーワードについて自由に連想を書かせることから絵のモチーフにつながる事を意識していました。何度も様々な側面から見直すことで、イメージが明確になっていったと思います。全体を散漫な像の集積にするのではなくまとまりのあるストーリーに載せて構成していったことが広がりも深まりもある展開を可能にしたのではないかと思います。伝えたい日本の良い面と悪い面という幼い思いが相手校によって東日本大震災と特に福島に被災に焦点化され、人々を再生させる日本の自然と伝統文化の力というところで福島の相馬野馬追が出てきたのには驚きました。人間を骨から作る授業を経っていたので、馬も骨を描かせてから取り組むことで躍動的な表現が可能になりました。1年生にしては大変よくできたと思います。下から上へ、被災から復興、そして未来への希望という流れを暗い色調から明るい色調へ、具象的な表現から象徴的なそして抽象的な表現へと変化させることを思いついたのは見事だったと思います。そして完成までよく頑張りました。
作品を鑑賞する力	A	3	ワークシートを作り、細かい部分まで見て取ることを基盤に感じたこと考えたことを丁寧に書かせました。生徒により差がありますが、意外なほど見落としは少なく、よく感じ考えられました。 ただ、自分たちの作品の鑑賞も、相手校に送るのを優先して、一クラスを除いて写真でしか鑑賞授業ができなかったこと、最後に完成して相手校から返送されてからは期末試験や入試、卒業式などで授業がつぶれ、取り組めなかったため、丁寧な指導ができなかったことが悔やまれます。